

宗教学科 カリキュラムマップ(2026年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。

①宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている(技術)
 ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識)
 ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考)
 ④これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲)
 ⑤他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度)
 ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
天理教学概論1	講義	1	2	天理教学を学び研究する上で必要な基礎的な知識の習得を通して、宗教学研究の輪郭を把握する。	学問としての天理教学の立場と性格、研究領域と課題、宗教学研究の歩みと現状などについて講じるとともに、宗教学研究の根拠となる啓示原典「おふでさき」『みかぐらうた』『おさしづ』と準原典としての「こふさ話」および「ひながた」、そして教義書である「教典」について概説する。	○	◎	○			
天理教学概論2	講義	1	2	天理教教理に関する基礎的な知識を習得し、教理と信仰について体系的に理解する。	天理教の神観、教祖の立場、教済観、世界観、人間観について、「元の神・実の神」、「月日のやしろ」、「つとめ」と「さづけ」、「かしのかりもの」、「いちれつきょうだい」、「ほこり」、「いんねん」と「たんのう」、「ひのきしん」などの教語と関連づけながら講義する。併せて、教会論や信仰論についても言及する。	○	◎	○			
天理教教祖伝概説1	講義	1	2	教祖伝を読み、教祖伝逸話篇も参照しながら、教祖の生涯を学ぶ。	教祖のひながたを深く学ぶことによって、その意味を正しく理解し、自分自身の生涯の指針として実際に役立てることができるようにする。		◎	○		○	
天理教教祖伝概説2	講義	1	2	教祖伝を読み、教祖伝逸話篇も参照しながら、教祖の生涯を学ぶ。	教祖のひながたを深く学ぶことによって、その意味を正しく理解し、自分自身の生涯の指針として実際に役立てることができるようにする。		◎	○		○	
宗教史概説1〔アブラハムの宗教〕	講義	1	2	ユダヤ教・キリスト教・イスラームといういわゆる「アブラハムの宗教」の歴史的・思想的関連性について学ぶ。	ユダヤ教・キリスト教・イスラームという、共通の歴史的出自を持つ三つの一神教的伝統の歴史と思想の、基本的な事柄について学ぶ。特に、聖典、歴史、教義についての基礎的な知識の習得をめざす。		◎	○		○	
宗教史概説2〔インド発祥の宗教〕	講義	1	2	東洋におけるヒンドゥー教と仏教の広がりについて歴史的に概観する。	ヒンドゥー教と仏教という二つの宗教伝統が、アジアでどのように受容され、その過程においてどのように変容していったのかを歴史的に概観する。		◎	○		○	
宗教学研究基礎演習	演習	1	2	宗教学研究(宗教学・神学/教学)に就くための基礎的な知識や諸概念を習得しながら、大学での学習に不可欠な文章読解能力と思考力を養う。	宗教学の基礎的な知識を身につけながら、大学での学習および研究に欠かせない、文章の読解能力と「自ら考える力」を養う。具体的には、担当教員の指導のもとでテキストを読み進めながら、宗教についての理解を深めるとともに、それぞれの理解を授業中に発表し合い討議を重ねることを通じて、宗教学的なものの見方や考え方に習熟し、「宗教学」という学問の基本的性格と全体像を把握する。	◎	○				
宗教学概論1〔宗教学の誕生と展開〕	講義	2	2	宗教学研究に関わる知識と理解を深めるとともに、経験科学としての宗教学の立場と研究分野、方法論など、宗教学という学問の全体的な輪郭を把握する。	宗教とはなにか、信仰とはなにか、といった課題について深く理解したうえで、宗教学という学問の成立過程の思想的・文化史的背景について解説する。西洋における宗教学の学説史ばかりでなく、日本における「宗教学」の成立と展開についても習熟する。		○			◎	
宗教学概論2〔現代における宗教の諸相〕	講義	2	2	人間の生きる営みとしての「宗教」現象を学問的視点から捉えることを通じて、「宗教」の意味世界の広がりや深みに目を向けるとともに、「宗教的存在人間」としての人間についての認識と理解を深める。	祈り、祭り、儀礼、巡礼といった「宗教」を構成するとされる主要な要素について、現代的な諸相を紹介・検討しながら、それらについて考える際に有益な宗教学の古典的な理論について学ぶ。そうした考察を通して、宗教学(宗教学研究)が人間を理解するための手掛かりとして大きな意義を担っていることを理解する。		○			◎	
現代宗教を読み解くゼミ1	演習	2	2	「宗教」をテーマにした文献を読み、私たちの「いま」を捉え直していく。	「宗教」を中心的なテーマに据えつつ、ウクライナ問題や世界的な感染症等のマクロな課題から、大学生活や就職活動など身近な問題など幅広い文献を読み、現代社会を生きる上で必要な知識と読み書きの技術の習得を目指す。	◎		○	○		
現代宗教を読み解くゼミ2	演習	2	2	「宗教」をテーマにした文献を読み、私たちの「いま」を捉え直していく。	「宗教」を中心的なテーマに据えつつ、ウクライナ問題や世界的な感染症等のマクロな課題から、大学生活や就職活動など身近な問題など幅広い文献を読み、現代社会を生きる上で必要な知識と読み書きの技術の習得を目指す。	◎		○	○		
伝道実習1	実習	1	1	「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。伝道課程の登録者は、「おてふり」の練習を兼ねる。また、毎月のひのきしん活動や「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	講演会やひのきしん活動を通じて他者へ貢献することを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふほく、ならびに教会の信仰活動に役立つ人材になることを目的とする。						◎

科 目 名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。</p> <p>①宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている(技術) ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)</p>										
伝道実習2	実習	1	1	「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。伝道課程の登録者は、「おてふり」の練習を兼ねる。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	講演会やお節会ひのきしんを通じて人とつながり、人につくすよろこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふほく、ならびに教会の信仰活動に役立つ人材を育成することを目的とする。						◎	
伝道実習3	実習	2	1	「祭儀式」および「おてふり」の実習。教会本部の講師陣により直接指導を受ける。それぞれ授業の最終日に試験を行なう。授業のコマ数が限られているので、授業以外に各自で「おてふり」の練習をしておくこと。	祭儀式、おてふりといった教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人材を育成することを目的とする。						◎	
伝道実習4	実習	2	1	鳴物の実習。教会本部の講師陣により直接指導を受ける。	天理教の祭儀において不可欠な鳴物の実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人材を育成することを目的とする。						◎	
天理教原典学1概説【おふでさき】	講義	2	2	「おふでさき」研究への手がかりを得るための準備を講義する。	まず、変体仮名のお歌になじむことから始め、その読み方を検討していく。次には、おふでさき執筆の目的、及びその内容についての検討。さらには、親神の救済計画における「よふほく」の役割について理解する。	◎					○	
天理教原典学2概説【みかぐらうた】	講義	2	2	みかぐらうたを教義書及び「つとめ」の地歌という観点から検討し、その内容の解釈を通して、天理教教理を概観する。	以下の各項目についての理解を深める。 1. みかぐらうたの成立の歴史的経緯 2. 原典(教義書)としてのみかぐらうた 3. みかぐらうた解釈本について 4. 各節の解釈	◎					○	
天理教原典学3概説【おさしづ】	講義	2	2	「おさしづ」を中心に天理教原典の理解を深めることによって、天理教の信仰の奥行きを確かめようとする。	天理教原典である「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」、及び「こふき話」について解題をしつつ、その位置を確かめ、特に神のことばである「おさしづ」について、体系的に理解する方法を考察し、実際におことばを読み味わうことによって、天理教の教理と信仰についての理解を深める。	◎					○	
天理教学特殊講義1【こふきを読む】	講義	3・4	2	現代世界に、教祖の教えを広く伝えるために、「取次ぎ者の語の台本」とも言われる「こふき」について学ぶ。	二代真柱の『こふきの研究』にもとづいて「こふき」の基本的な事柄について確認した後、「天理教関係古文書① 加見兵四郎・日本古記」を用いて、「こふき」本の原文にふれていく。	◎		○	○			
天理教学特殊講義2【現代社会における「人だすけ」】	講義	3・4	2	現代社会における「人だすけ」の実践例に接することで、社会問題に天理教の立場からいかに応答・対応できるかについて、自ら深く考える姿勢を身につける。	天理よろづ相談所「懇の家」事情部の活動と天理教の里親活動の特徴をみていく。その際、活動の紹介だけでなく、その活動を支えている天理教の病観、心身観、救済観にもふれていく。					◎	○	
天理教学特殊講義3【天理教における教会の歴史と意義】	講義	3・4	2	天理教における信者の組織集団である教会について、その成立と変遷を歴史的に概観し、教義論として教会の本質を、組織論から教会の反省を、実践論として教会の役割を論ずる。	教会設立の経緯に見られる神意について考察し、教会に関わる種々の問題に対して下されたおさしづをもとにして、教会の本質、役割、使命について理解を深める。			○			◎	
天理教史特殊講義1【近代日本の歴史と天理教】	講義	3・4	2	天理教の教会史と教理史の展開を辿りながら、明治・大正・昭和初期における日本の社会状況に、天理教史を位置づけて理解する。	ご存命の教祖の思召をたずねる「信仰史」の立場から、近代日本における天理教の歴史について理解を深める。			◎			○	
天理教史特殊講義2【天理教における布教伝道のあゆみ】	講義	3・4	2	日本、世界に広がった天理教の伝道を歴史的に把握し、将来の伝道活動を考える。	日本および世界各地の天理教伝道史を概観し、それぞれの地域における地理的問題を取りあげて考察する。受講者各人が自分の所属する教会や住んでいる地域を念頭におき、伝道史を学べるよう配慮する。			◎	○	○		
宗教学特殊講義1【原書で読む宗教事情】	講義	3・4	2	現代の宗教をめぐるを、入門書や解説書ではなく、原文で学ぶ。	英語圏、とくに米国を中心に、いま話題になっている宗教にかかわる諸問題を、現地の記事を通して知る。さらにその問題をよく見通すための学説を、原文で読んで学ぶ。これによって、宗教と世界の動向を読み解く力を養う。	◎		○			○	
宗教学特殊講義2【メディアと宗教】	講義	3・4	2	現代の日本社会の宗教観を形づくっているメディアの影響について学んでいく。	メディアには大きく分けて(1)マスメディア(テレビ・新聞・雑誌など)、(2)ウェブメディア(ニュースサイト・ロコサイトなど)、(3)ソーシャルメディア(ブログ・SNSなど)があるが、それぞれが私たちの「宗教」の見方をどのように形作っているのかを検討していく。	◎		○			○	

次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。 ①宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている(技術) ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)											
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
宗教学特殊講義3(現代世界の宗教事情)	講義	3・4	2	これからの「世界」を生かすために、世界の宗教文化について学ぶ。	現代世界の宗教文化について、文明論的な視点からその分布を再検討するとともに、これからの世界を生かすために必要な宗教文化の基礎的な知識を学ぶ。また、最新のニュースを活用して、現代世界の宗教事情をリアルタイムで紹介したい。	○		○		◎	
宗教学特殊講義4(宗教と思想)	講義	3・4	2	神の存在、宇宙における人間の位置、人格の不死などの宗教的論題を哲学的に研究する。	古代ギリシアから現代に至るまでの西洋哲学のいくつかの学説を検討し、西洋文明の基礎にある哲学的思考について理解を深める。			○		◎	
宗教史特殊講義1(インドの宗教)	講義	2	2	歴史的資料を手掛かりに、インド仏教史を概観する。	仏伝や碑文、歴史書などを手掛かりに仏教の源流を訪ね、インド仏教を通史的に理解する。		○	◎			
宗教史特殊講義2(日本における仏教の展開)	講義	2	2	日本における「仏教」の歴史と思想を学ぶ。	日本仏教の思想的展開をたどり、歴史を学ぶことによって、日本人の生活のなかに溶け込んでいる、身近な「仏教」の制度や習慣などについて理解を深める		○	◎			
宗教史特殊講義3(キリスト教の発生と展開)	講義	2	2	西洋世界におけるキリスト教の歴史的展開(宗教改革以前まで)を概観する。	キリスト教という宗教が、現代の西洋世界の精神的基盤としてのみならず、現代世界における法・政治・経済といった広範な領域を背後から規定するものであることを理解する。		○	◎			
宗教史特殊講義4(西洋キリスト教と近代世界の黎明)	講義	2	2	中世末期から近代初期にかけての西欧キリスト教(カトリック・プロテスタント)の歴史と思想を学ぶ。	中世末期から近代初期にかけての西欧キリスト教の歴史的展開を、カトリック宗教改革およびプロテスタント宗教改革を中心に思想史的・社会的視点から通観する。		○	◎			
宗教史特殊講義5(イスラームの歴史と思想)	講義	2	2	イスラームの成立からアッバース朝滅亡までのイスラーム社会形成の歴史を概観する。	「宗教的なもの」と「世俗的なもの」を一元とするイスラーム社会の特殊性を理解する。		○	◎			
宗教史特殊講義6(現代世界とイスラーム)	講義	2	2	イスラームの思想的側面を歴史的に概観することによって、唯一神への絶対的な帰依信仰を核とするイスラーム宗教文化の奥行きや深さの特異性について理解を深める。	イスラーム文化を根底で支えている「クルアーン」と預言者ムハンマドの言行録について解説したのち、シャリーアの特徴、イスラーム神学の発生と展開、特にムアタズイラ派とアシュアリー派の主要な神学思想、スーフイズムの発生と大衆化など、イスラーム思想の全体像を伝統と革新という視点から概説する。併せて近代の現実主義と原理主義の潮流に触れながら現代イスラームの動向について理解を深める。		○	◎			
宗教科指導法1	講義	3	2	中学校及び高等学校における宗教科の教員資格免許の取得を目指す者を対象に、宗教科教育の理論と実践について学ぶとともに、宗教を学び、教えることの意味について考え、その心構えと姿勢を養う。	宗教を教科として教えることの意味、とくに学校教育の現場で教えることの意味について学習し、教科目の一つとして「天理教」を教授することの意味について考える。また、教科としての「天理教」の内容や教授方法の特色についても指導する。			◎		○	
宗教科指導法2	講義	3	2	中学校および高等学校の教科「宗教」の教員資格免許取得をめざす者を対象として、基本的な教授法や技法および宗教科教育の理論と実際について学ぶとともに、特に宗教系私立学校において宗教を教えることの意味を考慮しながら、宗教科教員をめざす者としての自覚を養い、実際の授業に必要な技能を会得する。	宗教教育全般について概説したあと、教科教育の理論と実際、学習指導案作成の基本的な事柄などについて解説する。その後、天理学園の中・高校における宗教科教育を想定して、受講生自身が、自ら作成した学習指導案にもとづきながら、実際に50分間の模擬授業を行い、その内容および授業方法などについて相互に評価し合い、問題点や課題などについて討議する。			◎		○	
宗教科指導法3	講義	3	2	中等教育機関(中学・高校)における宗教科の教員資格免許取得を目指す学生を対象とし、宗教科教育の理念と実践について学ぶ。	この授業では特に、天理教管内の中学校・高等学校における宗教科を想定して授業を行なう。内容的には『天理教教祖伝』および『天理教教典』に絞り、毎回範囲を決めて、受講生に模擬授業を行ってもらう。			◎		○	
宗教科指導法4	講義	3	2	中学校・高等学校における「宗教科」の教員資格免許取得を目指す学生を対象に、宗教科教育の理論と実際について講じる。学生が広い視野をもって、「宗教科」の授業ができるようになることを目的とする。	学校教育の場における宗教教育の意義および位置付けを確認し、中学校・高等学校の生徒に宗教について授業を行いたい、実際にどこまでの知識が必要であり、どのような心構えで行わねばならないか、講義を通して学び、模擬授業を介して身に付けていく。			◎		○	
宗教研究演習1	演習	3	2	2年次までに修得した世界の宗教に関する基礎知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、主体的な研究課題に取り組む。	各教員別に指定されたテキストの読解や課題への取り組みを通して、宗教学研究への理解を深める。				◎	○	

次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。 ①宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている(技術) ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)											
科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
宗教学研究演習2	演習	3	2	2年次までに修得した世界の宗教に関する基礎知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、主体的な研究課題に取り組む。	各教員別に指定されたテキストの読解や課題への取り組みを通して、宗教学研究への理解を深める。				◎	○	
宗教課題演習1	演習	4	2	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行なう。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させる。				◎	○	
宗教課題演習2	演習	4	2	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行なう。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させる。				◎	○	
卒業論文		4	6	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行ない、卒業論文を完成させる。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させて、期限内に提出させる。				◎	○	